
平成28年 第1回(定例)日出町議会会議録(第3日)

平成28年3月3日(木曜日)

議事日程(第3号)

平成28年3月3日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

出席議員(14名)

1番	岡山 栄蔵君	2番	阿部 真二君
3番	上野 満君	4番	金元 正生君
5番	川西 求一君	6番	岩尾 幸六君
7番	土田 亮治君	8番	池田 淳子君
9番	工藤 健次君	10番	安部 三郎君
12番	白水 昭義君	13番	佐藤 隆信君
14番	佐藤 二郎君	16番	熊谷 健作君

欠席議員(1名)

11番 森 昭人君

欠 員(1名)

事務局出席職員職氏名

局長 小野裕一郎君 次長 安田加津浩君

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤 義見君	副町長	今宮 禮二君
教育長	西野 智行君	会計管理者兼会計課長	阿部 孝君
総務課長	村井 栄一君	財政課長	川野 敏治君
政策推進課長	井川 功一君	契約検査室長	佐藤 義人君
税務課長	脇 英訓君	住民課長	佐藤久美子君
福祉対策課長	原田 秀正君	健康増進課長	高倉 伸介君
生活環境課長	佐藤 寛爾君	商工観光課長	河野 晋一君
農林水産課長	岡野 修二君	都市建設課長	村岡 政廣君
上下水道課長	大塚 一路君	農業委員会事務局長	宮本 洋二君
教育委員会教育総務課長	宇都宮敏樹君	教育委員会学校教育課長	恒川 英志君
生涯学習課長兼図書館長	野上 悟君	監査事務局長	岩尾 修一君
総務課参事	藤本 英示君	財政課長補佐	帯刀 志朗君

午前10時02分開議

○議長（熊谷 健作君） 皆さん、おはようございます。

開議の宣告

○議長（熊谷 健作君） ただいまの出席議員は14名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

日程第1. 一般質問

○議長（熊谷 健作君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。13番、佐藤隆信君。
13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 13番、日本共産党、佐藤隆信です。

一般質問を行います。

その前に、昨日、真那井の同僚議員が、多くの真那井の町民が傍聴し、真那井のあの太陽光に心配をしている。それなのに、執行部の答弁は、あくまでも法律がない、条例がない、どうすることもできない、地域の人で片づけろと言わんばかりの答弁でした。私は、聞いていて、本当に残念でしようがありませんでした。地域の人が、もし、あそこで水が出れば、家も浸かるし、水田は水没してしまうと、だから、当初からあの地域にはつくってもらいたくないということで、

同僚議員があれだけ一生懸命に住民の代表として質問していたのに、何ら住民が納得できるような答弁はしなかった。これが本当に住民を守る行政だろうかというふうに、私は感じました。

今後、やはり住民の利益を守り、住民の命と財産を守る、ぜひ行政になってもらいたいというふうに感じました。

では、質問を始めます。

はじめに、2016年度の各施策について質問をいたします。

平成28年の当初予算を見ますと、新たに目立った、特別な政策は、私は余り見当たりませんでした。私は、地方創生と言うのなら、先般の同僚議員からも出ました、他の市町村に出せないような、また、ないような各種政策、事業を行うことを町に期待をしていましたし、期待しています。

私は、そのためには、各課は年間課題目標をつくり、実践を行い、そしてその結果、目標が達成されたかどうか検証をする、そのことが、今自治体に問われているのではないかというふうに思います。

そこで、はじめにお聞きします。産業政策について質問いたします。

まず最初に、農林水産業の年間の生産高の目標、農業、水産業、林業についてお答えください。

質問席で次にはいたします。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長、岡野修二君。

○農林水産課長（岡野 修二君） 佐藤隆信議員の質問にお答えいたします。

農林水産業の年間生産高の目標はという質問でございますけれど、平成18年度以降、国の生産高の公表というのがなくなりました。で、日出町独自で調査するというのは、なかなか困難な部分もございます。ですから、全体での目標設定というのは、現在行っておりません。その中で、主要品目につきまして、日出町といたしましての目標を設定してみましたので、報告をさせていただきますと思います。

米につきましては2億7千万円、キュウリが1億1千万円、カボチャが2,200万円、かんきつ類が2億円、ギンナンが2,700万円、畜産につきましては、養鶏、酪農、牛・豚とありますけど、全体で17億6千万円、林業といたしましては、シシタケの部門で3,300万円、水産業で3億3千万円。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 全体で幾らぐらいになりますか。私、今、計算できんかったんじゃけど。全体で幾らぐらいになりますか。ちょっと。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 全体といいますと、あと、ほかの野菜でありますとか、ほかの果樹等も入ってきますので、それらの細かい部分がわかりませんので、その辺については、合計は、今のところ出しておりません。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 出してねんじゃろ。出らんのやろ。出る。

○農林水産課長（岡野 修二君） ですから、日出町全体としては、数字というのは、ちょっと出ない状態にあります。ただ、参考までに、平成18年の最後の国の公表のときには、農業部門でありますけど約41億円と、そういうような生産高の数字でありました。それよりは減ってると思いますので、細かく幾らというのは控えさせていただきます。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 平成、その年だったら、かなり、私は下がっているんじゃないかち見るんよ。まず、高齢化していると、担い手がいないと、もう農地を見たら、現状は、遊休農地がどんどんふえていて、そして、米の値段はどんどん下がると、ミカン、ハウスマカンはほとんどやめてしまったという状態の中で、全体の生産高は下がってしまっているんじゃないかというふうに思います。

そこで、では、今言った、目標がそれぞれ出たんですが、これをやるには、具体的にどういう手当てをとるのかということが、これから問われるんだと思います。目標を立てたらそれを実践をして、先ほど私が言ったように、それが1年間たったらそれが本当にどこまでできたのか、できなければどこに問題があったのか、このことが一番これから先、大事だというふうに思います。その辺で具体的なものがあれば、言ってください。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 具体的な施策ということでありまして、来年度につきましては、ことしのような大規模なハウスを建てるでありますとか、畜舎を建てると、そういう計画、そういう要望はございませんので、28年度については、計画は今のところございません。これから各品目ごとに、やはり対策が必要になってきていると思います。生産者も減ってきておりますし、そういう中でどういう生産、どういう販売をしていくかというのが重要であります。そういうことで、また生産者、そして農協や漁協、関係機関と具体的な取り組みについて協議、協議というか、施策を考えていくと、そういうことをやっていきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） そこでお聞きします。

今、日出町で農業法人または営農集落が多分3カ所ぐらい、今度、真那井ができましたので農業法人があると思います。真那井の農業法人で、約、あそこは水田が40ヘクタールあります。

今度の農業法人に入ったのは、20ヘクタールそこそこだというように聞いています。その営農集落が、多分、米、単一作物ではなかなか大変だろうというように思います。そこで、多分、麦とか大豆とかつくるのではないかというように思います。そういうふうになったときに、今の水田は、圃場整備した水田はほとんど一毛作をつくる状態です。だから、排水施設、用水施設はまあいいんですが、排水施設が特に、昔のように暗渠排水も入っていない、1本しか入っていないということになっています。特に、真那井のような海拔ほぼゼロメートルです。ここで排水施設を入れないとなかなか二毛作でも難しいと思いますが、その排水施設をもし入れたとした場合、町としての支援策はあるのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 現在、真那井につきましては、作付しているのが、米、そして飼料用米が中心になっております。そのほか、麦、そして大豆ということになっております。今のところ、地元からそういう要望は上がっておりません。その中で、もし、地元のほうも作付のいろんな計画がありますので、そういう中で協議をしながら、もし、そういう必要な部分が出てくれば、補助事業にも取り組んでいきたいと考えております。

ただ、補助事業につきましてはいろいろなメニューがございますし、いろいろな要件が出てきますので、その辺につきましては、国・県と協議をしながらよりよい方策を、どういう事業を使っていくかというのを、対策を練っていきたく思っております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） じゃあ、そこで、排水施設の問題でちょっと聞きたいんですけど、排水、私のところは、今、排水溝を、土砂が埋まったので、今、その土砂を取り除くということをやって、ほぼ終わりました。ところが、この排水施設は地元が管理をするんだと、だから、これに係る費用は地元がするんだというふうに言われました。ただ、日出町には40%の支援策がありますよということで、まあ、私のほうしました。あの真那井の地域は海拔ゼロメートルと、海水が上がれば、排水溝は水がはかないという状況で地域の方は苦勞しています。そして、普段、排水溝が埋まれば、地域の方がすぐその排水溝の土砂を取り除いたり、また崩れればその修理も地元の水利組合が行っています。

あの排水、これは建設課の関係になるんですが、あの排水溝の管理、多分、持ち物は国のものと思いますが、管理は水利組合がするのでしょうか。どこが管理をする、受け持ちをしているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長、村岡政廣君。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 今、圃場整備でやられました排水溝につきましては、法定外公共物ということで、国のほうから今、町のほうに移管されております。これは財産権だけでござ

います。今、議員さんがお話ししましたように、排水路敷きの維持管理を地元の水利組合もしくは
は耕作者の方でやっておれば、当然、利用者の方が維持管理していただけるというように、私ど
もは解釈しております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 質問者は通告に沿って質問をしてください。13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） つまり、私が言いたいのは、あそこの、今言うように、圃場整
備をした中での、私のほうに、その生産高の問題を今言ってるんで、一毛作の水田ではなかなか
しても上がらないという場合には、当然、用排水路をきちっとしないとできないというんで、そ
の管理は水利組合があるということで、水利組合が今やっています。だから、ぜひ、そういう支
援策を、町が今よりももっとよい支援策をやってもらいたいというふうに思います。

次に、農産物の生産品の問題でちょっとお聞きしたいと思います。

先般も同僚議員が出しました。これは多分、政策の井川課長のほうから答弁があったんじやな
いか、ブランド品をつくるというようなのがあったんじやないか。農産物で日出町でブランド品、
今現在どんなものがありますか。それで、今後、どういうものをブランド品としてつくりたいの
か、答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 町のブランド品という質問でございますけれど、これまで、日
出町で主としてつくられてきましたキュウリ、カボチャ、トマト、ハウスマカン、ギンナン、そ
して城下かれいなどが特産、ブランド品ということができると思います。ただ、全国的に今、通
用するというのは城下かれいぐらいだと思っております。

施設園芸につきまして、燃油高騰等がありまして、かなり生産者が減少しているというのが現
状でございます。全体的に産地の規模が小さくなってきております。そういう中で、やはり今、
言ってきたものを少しでもブランド品としてこれからも進めていくためには、やはり特徴のある
つくり方、おいしいでありますとか、特別なつくり方をしているとか、そういうところで、やっぱ
り特化した特徴のあるものをつくっていききたいと、そのように考えております。

今のところ、それ以外の新たな品目というのは、具体的にあるわけではございません。ただ、
今、清水集落のほうで、新たに湧水を利用したワサビ栽培に取り組みたいということで進めてお
ります。そういう新たなものにつきましても、意欲的などころにつきましても、推進をしながら
ブランド品をつくっていききたいと、そのように考えております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 今、日出町では、白イボキュウリが、これまで日出町の特産品
として多く出されております。ところが、今、この白イボキュウリは、どんどん年間、量が減つ

てる。それは、一番原因は油の高騰でハウスに加温できなかったということが一番原因だと思います。先般、農協に行ったら、この白イボキュウリをもっと拡大したいので、何とかふやす人がいないだろうかという話も、農協の幹部の方からされました。私が言うと悪いんですが、キュウリとトマトの2つのブランド品をつくったらどうかというふうに、この白イボキュウリとブランド品をつくって、日出町にはこういうものがあるんだというぐらいなことを計画をしてやるという考えはありませんか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） もちろん、現在取り組みを行っておりますし、これから新たな新規就農者が入ってくる場合に指導できるというのは、野菜におきましてはキュウリとトマトだと思っております。そういう意味におきましては、新規就農者の希望者が来たときの相談のときには、キュウリかトマトということで推進、推進というか、そういうのをやってみませんかということ投げかけている状況でございます。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） そのときに大事なのは、私は12月の議会にも提案したんですが、杵築市はイチゴの「いちご学校」をつくりました。そして、そのいちご学校に卒業したのは日出町の豊岡の人です。そして、杵築市がリース農園をそのいちご学校のすぐところにして、そのリース農園に入りました。日出町の人杵築のリース農園に入ってイチゴをつくっているという状態です。

私は先般、だから、トマト学校を日出町につくったらどうかと提案をし、そして、日出町が農協やらと一緒にリース農園をすれば、日出町に移住できるし、生産も、そして担い手もできるということも提案をしてみました。今年度の計画には何か入ってるかで見れば、そういうことは全然入っていませんでした。

担い手をふやそうと思うんなら、やはり、そういう施策をしないと担い手はふえないと思います。日出町の今年度の担い手の、どれぐらいふやすか、何人ぐらいふやすかという計画はあるでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 担い手といいましても、いろんな新規就農者でありますとか、「人・農地プラン」に位置づけられた人、あるいは、その、とかいろいろありますけれど、多様な担い手が考えられますけど、認定農業者ということでいきますと、現在74経営体あるわけでございますけれど、目標としては83経営体ぐらいまでふやしていきたいと、具体的に今、そういう候補者がいるという状況ではございませんけれど、これからやはり認定農業者、意欲ある農業者ということでありますけど、そういう方を中心に、補助事業でありますとか、支援が行われ

ますので、少しでもそういう方を誘導しながら、担い手をつくっていきたいと考えております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） そのためにも、やはり、私は、きちっとした目標を持つべきだと思うんですよ。1年間にどれぐらいの若い担い手をつくると、つくる以上は、それだけの農業や漁業の生産の場を与えないと担い手ができないので、それも同時にしないと担い手をつくるということはできないんで、やはり、その、物をつくることとつくる人というのは一体のものなんだと思います。だから、物をつくる場所をつくって、そこにつくる人をどう集めるかということをししないと担い手はできないと、特に若い人はできないというんで、その辺の具体的なものを、やはり町としてつくるべきではないかというふうに、私は思います。その辺で、町長はこの辺を考えているのか、ちょっと聞きたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 今、どういうふうに考えてるかという御質問であります。今の質問にあわせて、一番最初に言われた、年間事業目標、計画、課題を持ってしっかりやれと、これはもう全く同感であります。私も常にそう言っていますが、まだまだ足りない面が多々あるわけありますから、精いっぱい、今後とも担当課を含めて、助言・指導をしていきたいと、そういうふうに思っております。

そういう中で、ちょっと、今までお話があった中で、若干、私なりに考えていきたいと思っておりますが、白イボキュウリなどの、言われる、もし農協のほうにそういう考え方があれば、私は、そういうことが私の耳に入っておりませんが、私は積極的に協力して、一緒になって増反するとか、生産増に向かってやっぱり努力しないといけない、待ってる……、やり手があるんであればですね。せんだつても営農同志会の皆さんと一緒に話し合いをしました。非常に、皆さん方、約33歳から34歳まで、14人ほどの方々が大変熱心にやる。私は、ここの、同志会の皆さんだけでもいいから、力いっぱい、町が入れてやりなさいと、こういう申し上げた。なぜかと、やる気があるわけ、専業農家としてやっていくと。

そのとき、また今、一つ出たのは、新たに就農される方があったら一緒に同志になってやりたいと、こういうことでありました。一人でも二人でもあれば、一緒にまた、規模を拡大して、お互いにそういう人たちがどういう農業をやりたいということを明確に打ち出していただければ、私は、お話聞ければ、精いっぱい、私は努力をすべきだと思って、じっと聞くという姿勢ではない、そういうふうに思っています。

いろんな課題があるんでありますが、私は、やはり日出町の中で自己反省してみますと、やはり農業の中の果樹だとか野菜だとか、専門的に担当する職員が、私は確保しないといけないと、こういうふうに思っておりますから、県の御指導等いただきながら、援助いただきながら、やっ

ぱり専門的な立場から、町として毎日、農家の方々と接触しないといかんなど、そういうふうに、今、お話を伺いながら考えておりました。

いろいろと御発言がっておりますので、これは、じっと聞いてるんじゃないで、やっぱり町がみずから動いていくと、そして一緒になって考えて、いい知恵が出れば、積極的に政策に取り入れていくと、こういうことが、私は非常に重要だと思います。待ちの姿勢ではもうだめだと思います。

特に、日出町の場合は特性があるわけではありません。大規模な圃場整備がされたり、大規模な経営をやったり、なかなか少ないわけでありまして。それであるだけに、やる気があって、おられる方々については、やっぱりよく御意見を聞いて、この人たちのためにもしっかり手を打っていかなきゃいかんと、そういうふうに、私は思いながらおった……。まだまだ、私どもは情報収集ができてない点を反省しながら、言われる点について、今後とも頑張ってみたいと思います。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 町長がそういう考えなら、担当課も本気でやられるち思うし、町長が言うように、専門的な人を入れるということも考えているならぜひ入れてやってもらいたいというふうに思います。やはり担当課は、町長がどういうふうに考えているのかがまだ見えないうちではないかというふうに、私は思うんで、その辺、町長が今言ったように、私は積極的に、そういう、やる、農民や農協や、するごとあれば積極的にそれにはのっていくという考えであれば、担当課もそれなりの、今後、計画立ててやることのできるんじゃないかというので、しっかり担当課も頑張ってもらいたいと思います。

次に、遊休農地の問題です。たまたま、うちのお母さんも農業委員なんで、遊休農地を一生懸命になって毎年毎年調査をして、遊休農地がどうなったこうなったちやってるんですが、ただ調べるだけ。この遊休農地を、じゃあ、有効的に日出町がどういうふうに使っていかうかと、この農地にどんな作物を使おうかと、つくろうかということについては、私はまだ見えない。例えば思うんですかね、タバコの後にあれだけのサツマイモ、干拓をつくってどんどん大きくなっていったと。それは、タバコの畑は遊休農地になったので、これを放置しては悪いということで、ああいうふうになったと思います。

日出町では遊休農地が、私はたくさんあると思います。この遊休農地をどういうふうに生かす、作物をつくるかという、そういう検討はなされているのかどうか、これは農業委員会とも話し、農協とも話さなければならぬと思いますが、町として、何らかのそういう方針があるのかどうか、お尋ねしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 農林水産課長。

○農林水産課長（岡野 修二君） 遊休農地でありますけれど、日出町の場合、高齢化でもう農業ができなくなったと、そういう状況での遊休農地がふえたり、あとは、日出町の場合、土地持ちの非農家というのが多くて、その結果、こちらにいないで耕作放棄地がふえてきてると、そういうのが多いということになっております。

具体的に、日出町として、今、こういうものを植えようというビジョンができていないと、それが確かでございます。担い手、担い手というか、その耕作者もいなくなってきたということもあるんで、その辺につきましては、よそからのやりたいという方を入れるということも含めまして、作物につきまして、耕作放棄地もいろいろございますので、この辺のところについてはこういうものが適しているとか、そういう、やっぱり作物を指定して推進すると、そういうことを今後やっていきたいと、そのように考えております。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 今の点は、私は農業委員会と町の農林水産課の連携の問題が、私はあると、そういうふうに思っております。農業委員会の会長等ともお話を若干させて、今、既に指示しておりますが、農業委員会と農林水産課の農業関係の一体化を図るので農業振興一係、農業振興二係と兼務体制をとって、一方で調査あるいはまた、今まで、その、レンゲソウを植えたり、いろんなのしながら、遊休農地をやっておりますが、やっぱり問題は、本来の農地として有効に活用することが一番重要だと、そういうふうに思っております。

そういうことからすると、今、放棄地があり、遊休農地がどんどん増加する中で、先ほど上がってまいりましたが、太陽光発電等がどんどん売れているということで、まあ、それはそれとして、やっぱりもう少し、本来の農地としての機能を発揮するような観点を、私は、町政と一体として進めないといけないと。そういうことですから、4月に向けて、この両組織の一体化に向けて、既に、何らかの対策を講じるようにということを考えて、そういう指示をしておるわけですから、4月以降は、できるだけ一体化して推進ができるように、双方の情報を共有しながら、どちらかがどうじゃなくて、やっぱりしっかり遊休農地を解消しながら有効な農地として活用できるような体制を組んでいきたいと、私から、そういうふうに申し上げたいと思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 次の質問とも重なるんですが、例えば、南畑などの周辺の過疎地域、こういうところも含めて日出町がどうするのかというのが、今、問われると思います。そうなったときに、町長もいみじくは言ったんですが、その専門家が必要と。私は、以前は、農業公社をつくったらどうか提案したんですが、町長は農業公社はだめだと、それはうまくいかな

いというふうに言ったんですが、仮に、農業公社というふうにつけなくても、こういう農業全般を本当に見て、一つの日出町の産業としてきちっと作り上げるという、そういう、やはり担当課なり、人を配置をしないと、今のこの情勢の中で、担当の農林課だけで全部やろうなんて、とてもじゃないけど無理なんで、やはり町長は、それと農林課や農業委員会を連携をさせるということも一つの手かもしれません、私は、やはり一つの、かなり、一つのそういう組織をつくって日出町の農林水産業をどうするのかと、全般を見きるような、そして、そういう指導体制をつくることによって初めて、この日出町の温暖化で、言うならば、条件は最もいいところ、かつては、一大野菜の産地でもあったこの日出町が、今やぼろぼろになっている状況の中をつくり直すには、そして、その中で、新しい農業後継者をつくるというんだったら、そういう組織と人員体制を配置しないとなかなか難しいと思うんですが、この点、そういうところまで町長は考えているのかどうか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） ここで具体的にどうこうというのは申し上げることはできませんが、やはり本来的には、やはり日出町でなかなか体制が組めないというのは確かなんであります。しかし、県も国もいろんな担当がいるわけでありまして。やっぱり連携して、専門家の方々と積極的に接触すると、あるいはまた指導を受けるということは、県のほうも、大変恐縮であります、トマトをつくる場合も、本当にもう毎日のように、関係職員が出てきて指導や助言していただいたわけでありまして。県が、やる気があれば、どんどん出てくるわけでありまして、私は、そういう意味からすると、県も積極的に支援・協力するというふうに言ってるわけでありまして、私のほうのやっぱり受け皿がしっかり受けて、向こうが出てきて、積極的に動けるような体制もつくっていかなきゃならんと、そういうふうに思います。町でどういう組織・体制をとっていくかという点については、また、じっくり考えさせていただきたいと。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） そのとおりなんです。県などは、今、本当にその地域がやる気になって、そういう体制をとって計画をつくれればのってくるというのが、今、大分県の振興局も、そういう体制だと、私、思います。だから、町が、その県や国がうまくのってくる体制をつくり上げるのかどうか、これが今、問われていることなんで、ぜひ、早急に、本当に第1次産業の農林漁業をもっと活発化し、日出町の生産力を上げて、日出町の農林水産業が豊かになるためにも、早急にその体制を、私はとってもらいたいというふうに思います。

次に、中小企業対策についてお尋ねします。

現在、町内の中小企業はかなり厳しい経営を営まれています。日出町として、そういう中小企

業のアンケートなどをとり、そして、その結果によって支援対策を考えたらどうだろうかというふうに思いますけど、そういう、何らかの対策はありますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 中小企業に対するアンケート調査をして、ニーズ等を把握して対策を練ったらという御意見でございますが、現在、日出町において、最近そういうアンケート調査を行ったというようなことはないのではないかなというふうに思っております。

そういう中で、国や他の自治体等がアンケート調査をしたものが、インターネット等で見ますと金融機関や経営支援機関、行政など支援機関によって希望する支援内容は変わりますが、主に、当面の資金繰りや業務拡大に関する資金調達等金融支援の希望が多いようになります。また、販路拡大等の、そういうのを次に、こうあるようになります。

それから、日出町商工会の中で、商工会の魅力をですね、魅力がなかなか感じられてないというような状況がある中で、会員のニーズを把握することによって、そういう魅力を高めるようなことが必要ではないかという意見も商工会の中で上がっているということを聞いておりますので、そういうことで、アンケート調査については、商工会と検討していきたいなというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） この問題について、私は、一部商工会の人に会って、いろいろ、私だけの考えでは悪いので聞いてまいりました。その中で言われたのは、各商工会の中でも小さな団体がいろいろしていると、一番大事なのは人材の育成だと。だから、町がそういう団体に話しかけて、一同に集まって人材育成をしてもらいたいというふうにありました。やはり、する人が大事なんで、その人材育成のために町は力を尽くしてもらいたいというふうにありましたが、そういう人材育成をするような考えはありますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 先ほど言いました、アンケート、全国的なアンケートの中でも人材育成とか雇用に関する要望というの若干こうあるようにあります。そういう中で、人材育成ということと直接ではないかもしれませんが、今年度から創業支援の事業を行っております。そういう中で、創業スクールというものを商工会と日出町とで連携しまして、1月、2月にかけて4回ほど開催をいたしました。そして、大体1回に十何名ほどの参加をいただきながら開催しまして、これは、来年度につきましても行っていきたいというふうに考えておりますので、そういう部分で将来的な人材育成につながるのではないかなというふうに思っております。それ以外の人材育成の方法もあろうかと思っておりますので、その辺も検討はしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 先ほど言った、その、アンケート調査はしてないということなんで、ぜひそれはしてもらいたいと思います。私、人材問題研究所に入って、いろいろなところの自治体の人や商工会の勉強をしているんですが、やはり第一には、アンケート調査をとって、その町の商工団体が何を願って、何を考え、何をやって、今、どういう問題があるのかということをもつつかまないと、支援もできないし、援助もできないというんで、まず、それをつかんでから、どういう支援をしたり、援助をしたり、手助けすればいいのかということがあるんで、ぜひアンケート調査を、この辺ではやってもらいたいというように思います。

次に、誘致企業に対する雇用の問題と誘致企業についてお尋ねします。

テキサス跡地に誘致した飲料水メーカーの企業、その後、何ら音沙汰はないんですが、どういふふうになっているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 飲料水企業ということで、株式会社錦祥であります。昨年の6月に、県におきまして立地協定を締結いたしました。その当時の計画では、ことしの3月から着工というような予定でありましたが、今現在、おこなっているような状況であります。それにつきましては、資金繰りの面、融資の面で、その融資決定がおりていないということを聞いております。そういう関係で、融資決定を待っているというような、今、状況にあります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） その、大丈夫ですか、その融資がおりなければもう撤退をするというふうにもなる可能性があるのではないですか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） その辺については、今現在、何とも判断できない状況であります。県とも連携をとりながら、今の状況を把握しながら、今後、判断をしていきたいかというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） その辺は、しっかりしないと悪いと思いますよ。いつまでもずるずるって、他の企業も入れられないというようなことにならないように、やはりきちっとしたところの確約をとるべきだというように思います。

次に、テキサスの建物の中、今、ホックスが入りました。その後、あの中に入る企業、申し出がある企業がありますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） それ以外の現在の状況であります。昨年の12月から、ことしの3月にかけて、現地視察について、既実施または予定の企業が4社ございます。工場と、それから事務所と、それから北側の駐車場等を利用したいというような意向があります。ということですので、積極的に交渉に当たりまして、誘致が成立するように、今後、努力してまいりたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） かつては、何か6社とか7社とかあったけど、なかなかうまくいかないで、今度は4社ち言ってるんですけど、いつまででもあれを放置しちよつたら、要するに、維持管理が要るだけなんで、早急に、入るような手だてをいろいろとらないと、私は悪いと思うんですよ。町長は、もう、ただでもらったからいいんじゃないかち言うかしらないけど、ただじゃないんですよ、維持管理がたくさん要ってるんだから、早く入れないと、その分、日出町の持ち出しがどんどんふえるちゅうんで、早急に、これは真剣になって、誘致企業を早くテキサスの中には入れてもらいたいというふうに思います。

次に、観光対策についてお聞きします。

日出町の年間観光客の目標数はどれぐらいをしているのか。また、売上額はどれぐらいか、この2つについて、まず。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 年間の観光客の目標数と売上額とといいますか、年間消費額についてであります。観光見込み客の目標数につきましては、現在、平成26年時点で107万人ということですが、これから積極的に観光施策を推進していくことによりまして、今回の地方創生の総合戦略プランの中において、平成31年、150万人という目標を定めております。そういう中で、あわせて年間消費額につきましても、平成26年の段階で約61億円ですが、これも総合戦略プランの中で、平成31年には年間84億円という目標を定めております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 150万人と84億円と、それをするには、いろいろな手だてが必要だというふうに思います。そこで、先般も出ましたんですが、大神の南のほう、南東部の観光対策、行うと言っていました。具体的にはどういうふうな観光対策を行うのか、答弁、お願いします。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 大神の糸ヶ浜の海岸線のことだというふうに思いますが、現在、大神・糸ヶ浜海岸線観光振興ビジョンを策定中であります。この策定の目的であります。この

地域は海岸線や田園風景などすぐれた自然景観を有するとともに、糸ヶ浜海浜公園、回天基地跡、リゾートホテルを初め、多くの観光資源が点在しているということで、観光を中心にこれらの資源を活用し、さらに、第1次産業も観光と絡めた中で、地域活性化につなげていきたいということを狙っております。

また、ビジョンの策定と並行しまして、この地域の活性化のため、今回、補正予算に地方創生加速化交付金事業の一つとして、大神・糸ヶ浜海岸線活性化プロジェクト事業を計上しております。現在、国にも申請をしております。

事業内容ですが、糸ヶ浜海浜公園を年間を通してスポーツ等を楽しめる施設に変えていくために、現在、パークゴルフ場を建設をしておりますが、さらに、売店の改修や温水シャワーの設置等の整備を進めていく予定であります。

また、回天大神訓練基地跡につきましても、説明板や誘導板の設置等を行い、見学しやすいようにしていく予定であります。

それから、地域内の観光情報を掲載した案内板を数カ所に設置していくということも検討をしております。

それから、ソフト面につきましては、糸ヶ浜海浜公園やソラージュ大分・日出等を活用して、スポーツ合宿の助成金や商工会青年部のほうがヒジフェスというのを過去3年ほどやっておりますが、それに対する助成金等も計画をいたしております。

現在、策定を行っております観光振興ビジョンの完成後、ビジョンを、これを参考に、具体的な取り組みを行っていかねばならないというふうに思っております。そのためには、地域の方が主体的に考え、行動することが重要でありまして、地元の漁業者、農業関係者、宿泊施設、観光施設関係者等をメンバーとする組織をつくっていかねばならないというふうに思っております。

そこで、糸ヶ浜の売店を拠点として、大神・糸ヶ浜海岸線活性化を考えている団体がありますので、この団体を支援することにより、地元関係者等がメンバーとなる組織をつくりまして、事務局として中心となって組織の運営には当たってもらいたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） こういう観光は、私は、余りお金がかからないと思います、箱物づくりじゃないから。かつて、町長がいろいろな箱物つくるときに、私はこういう提案をしたと思います。農林漁業などを利用した観光をつくったらどうかというんで、やっとなんかじゃないかと思います。ここで、ただ、私は、巡回バスのようなのを走らせたらどうかと思うんですが、その辺は考えていませんか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 観光振興ビジョンをつくる中で、いろいろな方の意見を聞いてきておりますが、その中で、足の確保というのがやっぱり、大神海岸地域において大きな問題だということで、バス等をというような御意見はいただいております。ただ、やっぱり、その、かなり費用的なものもかかりますので、すぐに実施するというようなところまでは至っていないかなというふうに思っております。

現在、ソラージュ大分・日出に電動自転車を何台か設置しておりますが、そういう部分での足の確保ということで、とりあえずの取り組みとして行っておりますので、今後、そういう必要性があれば、その辺も検討していかねばならないかなというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 若い人は確かに、車なんでもできるんですけど、あの地域は、何らかの交通網がないとなかなか行けるようなところじゃないんで、ぜひ、今後、高齢化した人もたくさんいるんで、そういう、足をつくる手だてを考えてもらいたいというふうに思います。

次に、住宅人口増加対策についてお聞きします。

町長は、もうこれまでも何回も、3万人という単位がなかなか、最近はちょっと減る状況にあります。日出町の人口の増加対策、具体的には、今のところ、何かあるでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 人口増加策で特別な策があるかということでございますが、人口増加策につきましては、今は補助制度を使ってるのが幾つかございます。その制度を活用させていただきまして、人口増加策をしていきたいというふうに考えております。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 人口がこれだけ減少しているというふうに、まあ、日出町は、他の市町村に比べてそんなにしてないと。ただ、人口を増加させるには、やはり一つは住むところだと思います。住宅が大事。これまでも何回も、青津山の町営住宅の問題とか、いろいろ出たと思います。でも、なかなかそれには手をつけられないで、今やぼろぼろの状態という状況です。

やはり低所得者の人には、町営住宅ちゅうのは物すごく大事なんで、日出町の場合は、住宅はかなり高いです。一家族が住むには、ちょっとしたところ行ったら4万円から5万円かかります。町営住宅なら2万円から3万円のできるんで、やはり住宅、住むには住宅は、特に若い人、所得の、まだ給料が低い人には、そういう住宅事情をよくしてこそふえるというんで、やはり町営住宅を何らかの方向で改善するのは必要じゃないかというふうに思います。と同時に、日出町に新たな開発を、私はしてはどうかと。かつて、豊岡の辻間団地を開発をして、その後、日出町では仁王の区画整理をして、あそこに多くの人が住みついて、若い人も住む、スーパーも住み移った

と。ところが、その後は、何も行っていません。今度、私が出している、あの藤原の中部、東部、福祉センター後ろから迫りかけてのあの地域、今、あそこに行って水田を見ますと、水田や畑見ますと、7割がもう荒れています、あの地域は。そして、最近悪いことには、部分的に住宅が建っています、あそこに。もし、あそこに町が手をつけずに、豊岡の太田のようにごろごろと住宅ができてくると、それこそもう区画整理がなかなかできない状態に、私は入るんじゃないかと。だったら、今のうちに、地主とよく話し合っ、やはり区画整理を考えたらどうかと。あそこは、高速道路から来て、愛宕に抜ける大きな道路もでき、空港道路にはすぐ行くところ、地域です。また、あそこは山坂がなくて、造成をしても、そんなに大きな工事にはならない状況のところ。今こそ、ああいうところに町は早く手をつけて、人口をふやすなり、商業地域をふやすなり、各種小さな会社が来るなり、一番いいところではないかと、私は見えています。その辺についての町長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 都市建設課長。

○都市建設課長（村岡 政廣君） 東部、中部の区画整理のことでございます。東部、中部につきましては、今、お話ありましたように、国道10号線のインターチェンジの付近でございます。大変、今後の発展が期待される地域でございますので、日出町といたしましても、商業地域化されるのではないかと懸念はございます。しかしながら、土地区画整理につきましては用途区域外もあります。そういうことで、農政部局との調整等も当然必要になりますので、今現在、地元の強い要望のもとに、事業に対する御理解、合意がないとなかなかできないというのが現状でございます。いずれにしましても、今後、日出町のまちづくりの重要な課題となりますので、皆様の御意見を伺いながら、事業の是非について考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） あそこ、農振区域に入っちゃお。一部、全部じゃねえな、一部な。じゃけ、それは、私は外す努力を、もちろん、地域の人としなけりゃならないんですが、あそこの、現地に行ったらわかるように、もうつくってる人ちゅうのはほんのわずか、状況です。現実、ほとんど荒れてしまっているという状況なんで、その辺の話は、町が行ってすれば、できる可能性があるんじゃないかというように思います。

私が一番心配なのは、今、空港通りに行くところにだんだん家が建っています。こんなところに住宅が建つかなちゅうところに現実建っています。だから、道路から近いところはどんどん家が建っていくんじゃないかというように思うんで、どんどんもう家が建てば、手はつけられなくなってしまうんで、早急に、あの地域には、そういう手だてをとったらどうかというふう思うんで、町長はこの辺、どう思いますか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 私は、今の点は、私は最も力を入れてる点でありますし、今後、力を入れないといかんと思います。そういう意味で、道路の周辺整備であるとか、特に、不動産関係業者、土地開発公社の話が出ておりますから、やっぱりいずれにしても、スピードを上げてやるためには、不動産関係業者と連携するということが大切だと思います。そのためには、道の問題、上下水道の問題、皆、周辺にあります。ですから、そういうお話があるときは積極的にかかわるように、担当課に指示をしております。と同時に、今言いました、周辺地域であります。泉北大神線周辺であります。農振の問題と開発行為であります。日出町は全ての土地に農振がかぶってありまして、開発するときはまた開発行為が要ると。二重の手続が要るので、もう相当時間を要すると。ですから、開発がおくれるわけであります。平成の17年ごろには、もうかなり多くの道の、重要路線のこの、全部、農振の解除についてお願いしたんでありますが、結果的には全部キャンセルされました。しかし、今言われた地域については、農振の解除を含めて、やっぱり今後ともやっていかないとかんと思います。土地開発公社でできるかできんかという点がありますが、やはり今後とも、土地の有効活用を考えるという観点からは大変重要な事項だと思います。十分、心していきたいと思います。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） 遅くならないように早く手を打ってもらいたいというように思います。

次に、福祉健康対策についてお尋ねします。

同僚議員がこれまでも何回も、私自身もしたんですが、昨日のことも出ました。子供たちを育てやすい状況をつくるには、いろいろな問題もあります。この一部で、他の市町村では、高校まで医療費の無料化をやっていると、日出町もそういうことを考えられないかというふうにも出ました。私もこれまで、中学校の医療費の無料化を、日出町がもう実施すべきじゃないかと、大分県でももうかなりの自治体が実施しているんでそれはすべきだと、執行部も検討をしていますと、その検討結果がどうなのか、また、今後やる気があるのかどうなのかと。と同時に、健康のためにはスポーツが大事です。お年寄りがグラウンドゴルフをしたり、体操したり、また、例えば、そうじゃなくて、農業では、ふれあい市場にお年寄りが野菜を出すことによって、農業することによって元気になるというふうなことが行われています。

そこで、今、グラウンドゴルフなどが大変盛んです。確かに、その草取りとかいうのは地域の人がやっています。でも、整備や砂利を入れるということになりますとかなりの金が必要で、そういう支援を町がやることのできるのかどうか、その2つについてお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長、原田秀正君。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 中学校卒業までの医療費無料化についての、佐藤議員の御質問であります。小児医療の充実、安心して子供を産み、健やかに育てることができる環境の基盤となるものであるというふうには考えております。子ども医療費につきましては、これまでも段階的に制度改正し、助成拡大に努めてきているところであります。現在、未就学児までは無料化、今、小中学生の入院費について無料化を実施しているところであります。さらには、医療費の助成につきましては、不妊治療費、未熟児の養育医療、ひとり親家庭の医療費、育成医療、小児慢性特性疾患、児童日常生活用具の医療給付等の助成をしているところでもあります。いろいろ検討する中で、今現在、結論を出すまでには至っていない状況でありますけれども、助成拡大については、さまざまな課題も残っております。

今後、県下の市町村の状況を見きわめながら、対象範囲の拡大については、さらに検討していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長、野上悟君。

○生涯学習課長兼図書館長（野上 悟君） 議員おっしゃいます、グラウンドゴルフの支援ということですが、確かに、今、高齢者、特に中心に、健康の維持のために、一つの手段として、大変、日出町の中でも多くの方が楽しんでいただいております。

なお、町内には自治区が所有している簡易的なグラウンドが10カ所ほどあるかと思っておりますので、議員おっしゃいますように、現状を一度確認させていただきながら、要望に沿えるように努力してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 13番。

○議員（13番 佐藤 隆信君） ちょっと時間がないので、他の質問は次回に譲りますが、中学校までの医療費の無料化はもう何回も検討して、日出町はどうとう大分県で最後でない実践、実行しないんですかね。私は、そうなるまでしないんじゃないかちいうような感じがするんですよ。私が、先般したときには、これぐらいかかるという、その金額まで出して、全部しても1,600万円ぐらいだと、一部負担すりゃあ1,200万円ぐらいでできるんだというところまで出して、やはりまだ検討するちゅうんで、これはやる気がないんじゃないかちいうように思うんで、それは町長がやる気があるかどうかの問題と、グラウンドゴルフについては、今、課長さんのほうが調査をして、できることはやっていくということなんで、言われていますが、町長の最後の考えをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 医療費の無料化は、県下最下位にはなりたくない、中辺ぐらいは行きたいと思っておりますので、今後とも努力させていただき……、今、最下位じゃないんです。で、よそが皆、努力しておりますし、また小学校の問題、中学校の問題、無料化の問題、いろいろ課題ありますし、総額予算が、ずっとやれば、もう恒常的に実施しなきゃならんと、こういうことで責任もありますので、引き続き検討させていただきたいと思います。

○議員（13番 佐藤 隆信君） これで終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） 8番、池田淳子君。8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 8番、公明党の池田淳子です。通告に従いまして、一般質問を行います。

初めの質問は、がん対策についてお聞きいたします。

がんは、昭和56年以降、我が国における最も大きな死亡原因となっており、現在では、年間死亡者数が30万人を超え、亡くなる方の3人に1の方ががんによるものであるとされており、今や、がんは珍しい病気ではなくなりました。その反面、医学の研究・進歩により、早期に発見、治療ができれば、治癒も可能となりました。

がん対策を総合的、かつ計画的に推進するため、がん対策基本法が平成19年4月に施行されました。がん対策基本法の中には、関係者の責務の項で、国、地方公共団体、医療保険者、国民、医師などの責務等を定めています。日出町におきましても、特定健診やがん検診を実施しており、さらには、がん検診の受診率向上のために、クーポン配布事業も実施されております。

そこで、お聞きをいたします。各種クーポン配布に当たり、利用者数の推移はどのようになっていますでしょうか。

次の質問からは、質問席にて行います。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長、高倉伸介君。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 池田議員の御質問にお答えいたします。

各種クーポン利用者の推移についてでございますが、クーポンについては、乳がん、子宮がんが、平成21年度から、大腸がんが平成23年度から、肺がん、胃がんにつきましては、平成24年度から実施しております。子宮頸がんは、21歳から41歳までの5歳刻みが対象で、その他のがんにつきましては、41歳から61歳までの5歳刻みが対象となっております。

また、平成26年度から、子宮頸がんは21歳、乳がんは41歳のみが対象となっております。これは、5年経過したために全ての順番が終わったということで、新たになる方だけが対象となっております。

利用者数につきましては、子宮頸がんが全体の24%から29%で推移をいたしております。

乳がんは29%から32%、大腸がんは18%から19%、肺がんは19%から20%、胃がんは17%から18%ということで、これの増減につきましては、年々ふえているとか減っているというような感じじゃなくて、その間で推移をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） クーポンを受け取りながら、何らかの事情で検診を受けられなかった方に対しまして、受診勧奨、コール・リコールというのを行ったと思いますけども、その成果はいかがでしょうか。その後、受診された方はどのぐらいいらっしゃるかわかりますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 受診勧奨、コール・リコール後の反応でございますが、平成26年度のクーポン配布後も、がん検診に申し込みがなく、職域での検診の実施の有無が確認できなかった方に対しまして、再勧奨のはがきを8月末に送付いたしました。その結果、対象者が1,575名のうち、はがき送付後に128名の方が申し込みをしておるところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 今、回答いただきました、胃がんが一番受診率が低いということなんですけども、胃がんに関係するピロリ菌の検査、除菌についての質問をさせていただきます。

ピロリ菌が胃がんの原因と考えられることから、ピロリ菌検査を行ってはとの趣旨で、私、平成25年12月議会で、また、さきの12月議会では同僚議員が質問をいたしました。その際の答弁は、ピロリ菌を除菌した後の死亡率減少結果の科学的根拠が十分でないため、胃部エックス線検査や胃内視鏡検査と組み合わせた検診方法の構築や死亡率減少効果等について、引き続き、検証を行うとのことでした。

さまざま見解はあるものの、ある著書には、ピロリ菌感染者は感染していない人に比べ、胃がんになる危険性が5倍以上と書かれております。また、テレビの健康を取り扱う番組でも、最近はいきりにピロリ菌と胃がんの関係を取り上げる番組が目立っております。国も2012年6月に策定されたがん対策推進基本計画、これは、12年度から16年度までの5カ年のものですが、その中でも、当初記載されていなかった胃がん予防が国の方針として明確に位置づけられ、ピロリ菌除菌が胃がん予防に有用であることなども盛り込まれました。

また、それまで胃潰瘍、十二指腸潰瘍にまでなっていなければ、ピロリ菌除菌には保険が適用されなかったのが、2013年2月21日からは、慢性胃炎にまで保険の適用範囲が拡大されました。保険適用には、胃カメラ検査が条件となります。この胃カメラ検査で胃がんを発見できるという仕組みです。別府市におきましても、先日の新聞に、中学2年生を対象に、希望者のみで

はありますが、ピロリ菌検査を行うとの記事が載っておりました。

保険適用になる前には、実費で数万円かかっていたこの除菌が、今、保険適用になったために数万円かかっていたものが数千円でできるようになったということです。ですけども、残念ながら、調べるための窓口がないために、みずから病院に行って調べなくてはいけないので、そこでもかなりの費用がかかる、また、敷居が高いというか、そういった状況にあると思います。こうした流れを見てみますと、ピロリ菌検査の必要性、町で行う必要性は十分あるのではないかと思います。

2月26日、ピロリ菌検査を求める3,590名分の署名を町長宛てに提出させていただきました。この署名を集める中でも、多くの方の賛同のお声をいただきました。ぜひ、日出町におきまして、住民検診またはがん検診の項目にピロリ菌検査を加えていただきたいと思いますが、見解をお伺いいたします。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 胃がん対策としての健康診断でピロリ菌検査を実施する計画ということでございますが、がんの予防重点教育及びがん検診実施のための指針というものが、先月の2月4日に一部改正されました。これによりますと、胃がん検診の検査項目は、問診に加え、胃部エックス線検査または胃内視鏡検査のいずれかとするというふうに変更になっております。

また、がんの予防重点教育の中で、胃がん予防教育は、胃がん検診を受診することの重要性と胃がんに関する正しい知識並びに胃がんと食生活、禁煙、ヘリコバクターピロリの感染等の関係の理解等について実施することになるというふうには、一步踏み込んで、がん教育の中でヘリコバクターピロリ菌感染について述べられております。

今後も、住民へのがん検診勧奨とともに、がんの予防についての普及啓発をしていきたいと思っております。

ピロリ菌検査につきましては、平成28年度地元医師会の先生や胃がんの検査実施体制を協議させていただき、住民等に十分周知した上で、平成29年度から検査項目に加えていきたいなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） この保険適用になった流れが、胃カメラをのむ、胃カメラで検査をするのが条件というのが、早期に、その胃がんが発見できるわけですね。わかりますかね。仕組みとしては、そのピロリ菌を除菌することが目的ですけど、ピロリ菌があると言われた方、陽性反応が出た方には、まず胃カメラをのんでいただくことが保険適用の条件となります。というのは、その、胃がんを発見できるというメリットがあるわけですね、その胃カメラをのむことに

よって。

で、これ、他の市町村の例ばかり出してあれですけども、豊後高田市では、早々にもう取り組んでいただいております。その中で、今まで過去5年間にたった4人しか見つからなかった胃がんの患者さんが、1年間で、この制度始めて1年間で10人も胃がんの方が見つかったということなんですね。で、そのうちの、10人のうちの9人は早期で発見することができて、大事に至らなかったというメリットもあります。

ということで、やはり予防医学というものがどれだけ大切かということを考えますと、がんになってから大きな医療費を使うのではなくって、やはり、その、予防のためのお金の投資といえますか、そういうふうにやっていただくのがいいかなというふうに思います。

で、今、非常に前向きな御答弁をいただきまして、先日、町長にも署名をお届けした際に、課長にも同席をしていただいて、思いを伝えさせていただきましたので、また、ぜひ、町長、多分、対象者であるかと思えます。ピロリ菌がいる……、40歳以上の方には8割方いらっしゃるという、ピロリ菌がいるという結果もありますので、これはぜひ前向きに検討していただいていることですので、感謝申し上げます。よろしく願いいたします。

次に、子育てほっとクーポンについて質問をいたします。

この大分子子育てほっとクーポンは、「子育て満足度日本一」を目指す県と市町村が、地域の子育て支援サービスを知って、気軽に利用していただくことを目的に、就学前のお子さんがある御家庭を対象に、子育て支援サービスに使えるクーポンを配布する事業であると理解しております。

子育てには、何かとお金がかかります。特に、就学前のおさんは、急な発熱や感染症で通院しなければならないこともありますし、習い事やスポーツクラブなども今は多くの選択肢があります。そうした中で、少しでも助成があるというこの事業は、大変ありがたいのではないかなと思います。

この子育てほっとクーポンの配布数、これは対象数になるんですかね、それはどのくらいいらっしゃるでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長、原田秀正君。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 池田議員の子育てほっとクーポンについてお答えいたします。

議員おっしゃったように、大分県が「子育て満足度日本一」という目標とした取り組みの一つとして、平成27年度から実施を始めたこの事業であります。日出町におきましても、27年の10月1日から取り組んでおります。

平成28年の1月31日時点の配布部数ですが、平成21年4月2日から平成27年の3月31日までに生まれたお子さんに配布する、大分子子育てほっとクーポンプラスにつきましては、対象児童数が1,515人に対しまして、配布部数が1,507部となっております。

また、平成27年の4月1日以降に生まれたお子さんに配布する、大分子育てほっとクーポンにつきましては、対象児童数が192人で、配布部数が173部というふうになっております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） これは、申請をしないといけないのかと思うんですが、その申請の際、担当課から対象者に郵送か何かで送るのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） これ、窓口の申請方式になっております。で、子ども医療費の受給者証を発行しておりますので、それと同時に申請をいただいて、ほっとクーポンプラスの券を差し上げております。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） じゃあ、もらえないというか、申請が出てこないという人はいらっしゃるんですか。その、漏れるといますか、そういった方はいらっしゃるんですか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） あくまでも申請方式ですので、小学生、未就学児につきましては、なかなか、病気になった場合、医療費の受給に来るとかということがございますので、子ども医療費の受給に来る、申請に来るという状況がありますので、100%申請というふうにはなっておりません。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） その辺のあり方もちょっと考えないといけないと思います。で、現時点での実際の利用者数、クーポンを利用してサービスのメニューを受けられたという方はどのぐらいいらっしゃいますか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 利用者数ではありますが、このクーポンが交付対象児が未就学児というふうになっておりますので、サービスの一部が小学生の兄弟姉妹も利用可能となっておりますため、実利用者数の把握はできておりません。平成28年の1月31日時点での利用総額は出ております。528万円であります。この金額から算出した利用率は、約31.4%というふうになっております。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） これは、有効期限がありますね、それぞれ。その中で、有効期限前に、特別その勧奨だとか、お知らせだとかする計画はあるんですか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 有効期限がほんとクーポンプラスのほうが平成30年3月31日まで使えます。で、子育てほんとクーポンのほうが3歳の誕生日の前日まで利用可能というふうになっております。今現在、今、考えておりませんが、利用者数が伸びない場合には検討していきたいというふうに思います。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） この中のメニューというか、サービスで日出町で使えるサービスはどのようなものがあるか教えてください。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 現在、クーポンが利用できるサービスとしまして、民間保育所で実施しております一時預かり事業、交流広場H i C a L iで実施しています託児事業、杵築市で実施しています病児保育事業、そして、インフルエンザ予防接種とフッ化物の塗布であります。以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） この中で利用者の多い、サービスの利用者の多いメニューはどれですか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 利用者が最も多いサービスは、開始時期が10月1日という関係もありまして、やはりインフルエンザの予防接種が全体の、利用者全体の95.6%になっております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） クーポンを利用する際に、例えばその申請にどのメニューを使いたいとかいう申請は要らないですね。これ、私がまだ質問書きましたけど、後ずっと調べてきましたら、現物払いもしくは償還払いということで、日出町以外は現物払いでいいんですよね。なので、後で、このメニューを使いたいから申請が要るということはないですね。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 今、申しあげましたサービスに、何でも使えるということでありまして。それぞれの利用者、サービスの利用ごとによってクーポン使い分けはしておりません。何でも使って結構です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 先ほどクーポンの有効期限を課長、おっしゃってくださいました、平成30年3月31日まで、または誕生日の前日ということなんですが、この事業がいつまで継

続するかわかりませんが、非常にいい制度というか、事業だと、私は思います。その、インフルエンザの予防接種にたくさん使われてるということですが、やはり重症化しますし、家計の負担を少しでも助けられるという、非常にいい事業だとは思いますが、今後、この、今のサービスに何か新しい、こんなサービスがあったらいいのになというお声を聞く、ニーズ調査といたしますか、そういったものを行う予定はありますか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 今後、利用できるサービスの拡大については検討しております。新たなサービスとして取り扱うために、大分県との協議が必要となってまいりますので、今現在、ニーズ調査等を行う考えはございません。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 他の市町村で見ても、例えば、大分市、ここが一番充実してるなと思ったんですけど、家事ヘルパーの派遣ですとか、これは1時間1,600円から2,500円で日常的な家事支援をしてくれます。掃除、洗濯、調理、買い物、主婦がしなければいけない、まあ、小さい子供さんを抱えて大変だなと思うようなことをしてくれます。それとあと育児支援ですね。これ、沐浴等もしていただけるということで、沐浴の介助やおむつ交換なども含まれるということです。

あと、「うみたまご」の入館料にも利用できるそうで、あと、年齢別の絵本の購入、読み聞かせ用の絵本の購入ですね。で、対象者が多いからでしょう。すごくサービスといたしますか、市独自の多彩なサービスが充実しているな、そろっているなという感を受けました。

あと、大分市以外はもうほぼ変わらない内容ではあったんですけども、ただ、ホームページの案内の仕方について、良心的な自治体もあれば、普通にお知らせをしてる自治体も、中には、そのメニューも載せてないところもありました。

で、今、インフルエンザの予防接種を受けられる方が95%、大半の方だと思いますけど、インフルエンザの予防接種を受けられる医療機関をちゃんとこう載せてくれる自治体もありましたので、そういったところもちょっとこう心を砕いていただいて、してあげると大変親切かなというふうに思います。

今後、日出町独自のサービスをふやす計画というのは、先ほどニーズ調査を行う計画はないということなんですけど、これは、県の協議でしか決められないということですか。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 市町村独自のサービスということで、やはり県との協議の中で決めていくようになってるんですけども、そういう県、市町村独自というサービスは決定していくことはできますので、今後、ふやしていきたいなというふうには思っています。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） では、本当はニーズをしっかりと聞いていただいて、どういったことが喜ばれるのか、どういったものが必要なのかというものを聞いていただきながら進めていただければと思います。

次の質問に……。

○議長（熊谷 健作君） お諮りします。一般質問の途中ですが、ここで中断して、しばらく休憩したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、しばらく休憩いたします。午後1時30分より再開いたします。

午前11時30分休憩

午後1時28分再開

○議長（熊谷 健作君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。8番。

○議員（8番 池田 淳子君） では、3番目の質問に移らせていただきます。

チームとしての学校、いわゆるチーム学校についてお尋ねをいたします。

文部科学省は、学校の教職員構造の転換として、チーム学校の実現を掲げています。昨今の学校現場は、教員本来の仕事である学習指導のほか、生徒指導や部活動の指導はもちろん、いじめ、不登校への対応やアレルギー対策、心のケアまで、業務が複雑、多岐にわたっています。児童生徒の個別のニーズも多様化しており、教員に求められる役割が拡大しています。

チームとしての学校像とは、「校長のリーダーシップのもと、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質、能力を身につけさせることができる学校」とあります。

教員を中心に、多様な専門性を持つスタッフを学校に配置し、学校の教育力、組織力を向上、教職員やさまざまな専門スタッフがチームとして適切に役割分担、これにより教員は、授業など子供への指導により専念できるというものです。

日出町では、コミュニティ・スクールを実施していますが、チーム学校についての取り組みは考えていますでしょうか。御見解をお伺いします。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長、恒川英志君。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） それでは、池田議員の御質問にお答えいたします。

チーム学校の日出町での取り組みはとの御質問ですが、チーム学校の考え方は、今、議員おっしゃられたように、教職員を中心に多様な専門性を持つスタッフを学校に配置して、学校の教育力、組織力を向上させることを目的とした取り組みと理解しております。

そういう意味を鑑みますと、現在、町内の学校では、県費で主幹教諭の加配として配置しております。また、同じく県費によりスクールカウンセラーの配置を行っております。また、町の補助により、学校司書の全校配置、それから特別支援教育支援員の配置も行っております。また、特色ある学校づくり予算を活用いたしまして、外部人材、また学習サポーターの活用を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） スクールカウンセラーというのは、各学校、全てに配置をされてるんですかね、ちょっと後でお答えをいただきたいと思っておりますけど。

国際教員指導環境調査というものが行われまして、この調査は、学校の学習環境と教員の勤務環境に焦点を当てた国際調査で、OECD加盟国34カ国、地域を対象に2013年に実施したものです。

日本の教員の置かれている現状は、我が国の学校は教員以外の専門スタッフが諸外国と比べて少ない、さらには、教員の1週間当たりの勤務時間は日本が最長ということです。

ちなみに、その3カ国、平均が38.3時間に対し、日本は53.9時間ということでした。先生方の学習指導以外の業務が多いことが伺えます。

特化してですが、スクールカウンセラー、専門性を持つスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、そういった方の活躍といいますか、登場する場面が今、多い学校現場ではないかなというふうに、私も捉えておりますが、そういった方たちを配置することによって、随分、先生方の負担が軽減できるのではないかなと思います。

先ほどスクールカウンセラーというふうな答弁がございましたけども、各小中学校それぞれに、全てにその配置されているのか、また、その後、もし配置されていないのであれば、このスクールソーシャルワーカーを含め、配置を考えているでしょうか。お聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） それではまず、スクールカウンセラーの配置について御説明申し上げます。

現在、日付町においてスクールカウンセラーの配置校は、小学校2校、中学校2校であります。そのうち、中学校1校、残り、中学校は3校ありますが、残り1校につきましては、対象校といたしまして、その中学校に配置されているスクールカウンセラーが兼務するという形をとってお

ります。で、残り3つの小学校につきましては、配置はされておりませんが、一番、大規模であります日出中学校にスーパーバイザーと呼ばれますリーダー的なスクールカウンセラーが配置されております。もし、この3つの、配置されてない3つの学校でそのカウンセリングを希望する方があれば、このスーパーバイザーが対応するというような形をとっております。

で、今の配置の、学校数はそういう形になっておりますけども、大体、全ての学校が週1回という配置になっております。この配置、十分かといいますと、今、議員おっしゃられますように、非常にニーズが高まっておりますので、今、県のほうに配置日数の増加、配置校の増加を要望しておるところでございます。

それから、スクールソーシャルワーカーにつきましては、現在のところ未配置でありますけども、今後、国や県の事業を活用しながら、配置の方向でもう既に検討を始めているところがございますので、今後の動向を注視していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 週に1回ということですが、たまたまその、いつ何どき起こるかわかりませんので、できれば常に、常駐という形が一番望ましいんですけど、これも予算のかかることですので、幾ら県費といえども、そういったことも勘案していただきたいと思っております。

で、国の予算案で28年度はスクールソーシャルワーカー配置に10億円、また、スクールカウンセラー配置に45億円計上する予定のようです。これは、あくまでも案なんです。いずれも昨年度より大幅な増額となっております。しかしながら、その新聞報道によりますと、スクールソーシャルワーカーに関しては、有資格者が見つからなかったとの理由で、大分県は、県教委配置分の1人が15年度はゼロになったとありました。実際、そのスクールソーシャルワーカーというのは足りてないのが実情なんではないでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） スクールソーシャルワーカーにつきましてはですけども、社会福祉士と呼ばれる資格をお持ちの方を指すというふうに理解いたしますと、絶対数としては、各市町村、1配置するという試算のもとでも十分ではないというふうに情報を得ております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） これは、資格の要ることですから、どなたでもというわけには、多分いかないんでしょうけども、先ほど課長もおっしゃいました、一番ニーズの高い部分で生活、貧困ですとか、生活習慣ですとか、そういったことをしっかりと支えていただける職責にあるポ

ジションだと思しますので、また、そういった、国だったり、その、県だったりと協議しながら、しっかりと配置のほうをお願いしたいと思えます。

で、こういった取り組みによりまして、チーム学校として先生の負担がすごく大きいというのは、もう皆様御承知のとおりだと思えます。いろんな対応、不登校の対応ですとか、いじめの対応ですとか、それを報告するに当たっては、たくさんの事務作業等も生じてきます。そんな中、こういった専門性を持ったスタッフが配置されることによって、この先生の負担というのが、軽減できることには期待ができますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） これらの取り組みによりまして、教職員の負担が軽減できるかという御質問ですけれども、学校現場には学級の問題は学級で解決すると、学級担任が解決するという考え方が数年前までには非常に強く残っておりました。その結果が、先ほど議員おっしゃられたような超過勤務の勤務実態になってるんじゃないかというふうに理解しております。しかし、現在は子供たちのニーズも多岐にわたります、また教職員の個々の力も当然限られておりますことから、学校長を初めとしまして、組織で問題解決に当たるという考え方にだんだん変わってきております。これに、さらにスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフが加わって、適正に運用がなされれば、間違いなく負担軽減につながると捉えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） そういった、専門的なスタッフを常駐できるように、また、国や県に働きかけて、この予算の件に関しては、県のほうからおりてくるんでしょうけれども、しっかりとその辺の情報も見きわめながら、よろしくお願いをしたいと思えます。

では、最後の質問に移ります。

以前、25年の12月議会でも一度、虫歯予防に有効なフッ化物の活用について質問をさせていただきました。当時の答弁といたしましては、フッ化物は薬物であることから、学校の運用については、子供たちの安全を第一に考えて慎重に対応しなければならない。管理の問題、誤飲した場合等の緊急時の対応、安全実施体制の構築の問題など、今後、フッ化物洗口に学校現場として取り組むに当たり、これらの課題解決へ向けて関係機関と十分協議を進めながら、体制の整備を慎重に進めていきたいと考えていますという答弁だったと思えます。

別府市では、全公立幼稚園で保護者の同意を得た園児を対象に、1月の新聞に掲載されておりましたから、来月からと書いてありましたので、恐らく2月から実施されるということが決まりました。誤飲の心配につきましては、歯科医らが見守るとのことでありました。恐らく、何度も協議が重ねられての実施に至ったのだと思っております。

前回の質問以降、検討・協議は行ったのでしょうか。行ったのであれば、その結果を教えてください。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） 検討は行ったのかという御質問ですが、学校長、それから教諭、養護教諭を検討委員といたしまして、2回、検討会を開催いたしました。それに加えて、県教委のほうで先進校視察を計画していただきましたので、それに各小中学校の代表、校長代表、それから教育委員会事務局、計11名、佐賀県の基山町の小中学校のほうへ視察に行っております。

で、これまでの検討会の中で出された御意見は、前回答弁した内容のことが出されました。それについて、いろいろ学習、進めながら、先進地の視察等も加味しながら、100%クリアできている、できるわけではないけども、先進校では大きな事故もなく進んでおるということを、我々も視察をしてまいりました。そのことを踏まえて、これから、じゃあ、日出町ではどのような形で運用すれば、より安全な実施ができるかという方向で、今後も検討を続けるというようなところまで話をしております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） じゃ、検討が継続中ということによろしいですか。

で、実施するしないというお答えが出てないということなんですけども、別府市では、先ほども申し上げましたけども、そういったことになってます。それとあと、県の条例でも、そういったことがうたわれておりますけども、その中で、どういう方向でといいますか、その、前向きなのか、それとももう絶対に、いやいやこれはということなのか、その辺の、案分といいますか、わかりましたら、教えていただけますか。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） 済いません。説明不足で大変申しわけありません。方向とすれば、実施するという方向であります。そのために、どのようなところを改善していくべきかということ、今後、検討していくということでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） 大変失礼をいたしました。じゃ、いつごろからとか、そういった体制については、まだ具体的なものが出てないということでしょうけど、来年度あたりぐらいという、今、28年度は厳しいのかな、29年度ということによろしいんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 学校教育課長。

○教育委員会学校教育課長（恒川 英志君） やはり検討を進める上で、ある程度の目安というものを定めておかないと、検討は進まないというふうに考えております。

それで、今後、薬剤師会との調整、それから実施方法、言われます、最後の詰めなどを検討していく必要がありますけども、その進捗状況にもよりますけども、早ければ、平成28年度後期からの実施を目安として、今後、検討を進めていく予定でございます。その検討の結果によって、それが若干延期される可能性は当然ありますけども、一応、目安としての基準というのは、そのように考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 8番。

○議員（8番 池田 淳子君） では、先ほど、前回質問をしたときにこう課題として持ち上がっておりました、誤飲した場合の対応であるとか、安全、実施体制ですね、そういったものをきちんと、その、希釈の度合いですとか、そういったものの管理なども含めて、安全であるように実施の方向に向けていっていただきたいと思います。

これで、私の質問を終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） 7番、土田亮治君。7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 7番、土田亮治です。通告書に従いまして、一般質問を行います。

まず、障害者差別解消法についてお伺いをいたします。

この法律の施行に伴う町の対応についてお聞きしたいと思いますが、誤った認識での質問もあろうかと思えます。その際は、答弁にて訂正をいただきたいと思えます。

平成28年4月から、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行されます。この法律は、障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害者基本法第4条の差別の禁止の規定を具体化するものとして位置づけられており、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項、行政機関等及び事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置等を定めることによって、差別の解消を推進し、それにより、全ての国民が相互に、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することが目的とされています。

この法律では、行政機関が差別的な取り扱いをすることで、障がいを持つ人の権利を侵害しないことや障がい者の年齢や障がいの状態に応じた合理的配慮を行うことなどが規定されています。

役場の窓口での手続については、既に職員の方が細心の注意をもって、障がいを持つ人への接客等、対応されていると思えますが、この法律の施行に際し、改めて徹底しなければならないのではないかと思います。

そこでお伺いをいたします。

この法律の公布が平成25年となっておりますが、その後、これまでの間、そういった取り組み、職員の周知徹底はどのように行われているのでしょうか。

次の質問からは、質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長、原田秀正君。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 土田議員の施行までの準備につきましてお答えいたします。

今年度の夏に、課内で障害者差別解消法の学習会を行い、秋には制度の概要についてのパンフレットを作成いたしました。町職員と町内の障がい福祉事業所等への周知を図ったところであります。

町民の皆様への周知につきましては、2月下旬に日出町のホームページに掲載するとともに、障害者差別解消法が施行される4月には、広報ひじに掲載する予定にしております。

また、教育の分野では、国のモデル事業として、平成26年度、27年度の2カ年におきまして、日出小学校、日出中学校をモデル校といたしまして、大分県立日出支援学校、別府教育事務所、町内の全小中学校と連携して、教育現場における合理的配慮について研究を行い、準備をしてきたところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 課内で、この庁舎の中でということですが、課内で研修は、昨年の8月、行ったということですが、これにつきましては、全職員についてはどうなのでしょう。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 町職員につきましては、制度のパンフレットを作成いたしまして、そのパンフレットを配布したところであります。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 全職員に周知をしたほうがいいんじゃないかなと思うんですが、新年度からの施行ということなんで、関係する全職員に周知を徹底するべきだと思いますが、いかがでしょう。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 人事管理の総務課と協力いたしまして、職員には、再度、徹底していきたいというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） それでは、この法律の中で、ガイドラインとして行政機関等の職員のための対応要領の策定も掲げられております。地方公共団体においては努力義務とされておりますけれども、この職員向けガイドラインの策定についてはどのようになっておりますか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長、村井栄一君。

○総務課長（村井 栄一君） この法律の中に、議員おっしゃられるように、職員向けのガイドラインを作成するよう、確かに定められております。それも努力義務でありますので、必修ではありません。今、日出町では、現在、ガイドラインは作成しておりませんが、現在、他町村の状況を見ながら作成を検討してるところであります。

職員には、日ごろから、町民には親切丁寧に接するように常々指導をしてるところであります。人権8課題の中にも、障がい者に対する人権ということで、研修も常々職員にやってきているところあります。

また、窓口におきましては、聴覚に障がいある方につきましては、耳マーク等を設置して、筆談や手話等で対応しているのは現状であります。

また、今回、マイナンバーの申請におきましては、点字でできるような体制もとっているところあります。

以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 確かに、ガイドラインの策定につきましては、努力義務でもありますし、対応等については間違いはないと思っておりますけれども、指針を示すためにも、ぜひ早急に策定をしていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） すぐつくるという約束はできませんけど、検討しながら、担当課と協議しながら、検討していきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） ぜひ、作成をしていただきたいと思っております。

それでは次に、公共施設等の環境整備についてお伺いをいたします。

この法律の中で、行政機関等及び事業者は、必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、みずから設置する施設の構造の改善及び設備の整備、関係職員に対する研修、その他の必要な環境の整備に努めなければならないという努力義務があります。職員への対応は、先ほどお聞きしましたけれども、町の公共施設における環境整備の方向性、方針についてはいかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） この法律の中に、行政機関も、そういう障がい者に対する、配慮するようというところでうたわれておりますので、今現在、耐震工事をやっております中央公民館におきましても、身障者用のトイレを設置しております。庁舎内におきましても点字ブロック、あと、身障者用のトイレも設置しておりますし、あと、地区公民館ですね、ふれあいセンターに

おきましても、身障者用トイレではありませんが、和式トイレから高齢者の方とかに、障がい持たれる方に使えるように、和式を洋式化にしてる現状もございますし、あと、公園におきましても身障者トイレを随時設置してるところでありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 点字ブロックや身障者トイレ等の改善が順次なされているようでございますけれども、障がい者も健常者と同様に、弊害なく利用できるよう、続いて、順次、施設の整備を行っていただきたいと思ひます。

この項目の最後の質問になりますが、相談体制、啓発活動についてお伺いをいたします。

障がいを理由とする相談体制の整備や差別解消を図るための啓発活動について、どのように実施する予定かをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（原田 秀正君） 相談体制、啓発活動につきましては、障がい者差別解消の趣旨と行政肥大化防止の観点から、相談体制については、既存の相談窓口の活用、充実を図ることとしております。具体的には、何でも相談、福祉対策課の障がい福祉係、障がい者の相談支援事業所等において、窓口対応と機能の充実を図ってまいります。

さらに、人権の担当課でもあります住民課とも連携を強めていきたいというふうに思っております。

町民皆様の啓発活動につきましては、先ほど申し上げましたように、日出町のホームページや広報ひじ等で活用していきたいというふうに思っております。

また、企業への啓発活動につきましては、毎年、人権の分野、企業訪問を行っておりますので、その機会を利用して、障がいを理由とする差別解消の取り組みを啓発していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 十分な啓発活動を行っていただきたいと思ひますが、障がい者が不便に思うことなどの相談に対しましては、耳を傾ける体制づくりにも前向きに対応していただきたいと思ひます。この問題につきましては、デリケートな面もあろうかと思ひますけれども、障がいの有無によって分け隔てられることなく、強制できる社会の実現のためにも、適切な指導・啓発に努めていただきたいと思ひます。

お願ひを含めまして、この項の質問は終わりました、次の質問に移りたいと思ひます。

政策・計画に関する組織の設置についてお伺いをします。

昨年は、地方創生総合戦略をつくり、現在は、第5次日出町総合計画を策定中とのことですが、

こういった政策の総論的なものについては、作成するだけでなく、その後の進行管理や検証がより重要ではないかと思えます。地方創生については、戦略の中に、検証や改定について記載されていますが、そういったものまで含めて、つくるときから一連の組織、専門として事務を行う組織が必要ではないかと思えます。

町政全般にかかるような計画を立てたり、大規模施設を建設するとか、その時々に応じた、いわば、町の目玉事業については、各課とも通常業務をこなす中で、十分な研究や調査を行うことが難しいのではないかと思えます。このような組織とは、何も一つの課で対応しなくても、外部の人材を含む推進チームやプロジェクトチームのような組織でもいいのではないかと思えますが、これまでにそういった事例というのはありませんか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 土谷議員の御質問にお答えをいたします。

単独の課では解決できない問題や町政の運営において大きく左右するような大きな事柄につきましては、これまでプロジェクトチーム等を設置しながら、意見交換、問題解決に対する提起の場を設置してまいりました。

例を申し上げますと、暘谷駅周辺整備事業、町中心部の駐車場問題、テキサス社日出工場の跡地利用問題、新図書館を含めた複合商業施設以外の利活用問題等々でございます。

最近では、地方創生の総合戦略を作成するに当たりまして、各課から選出してもらいました17名から成る若手職員のワーキンググループを設置いたしまして、意見交換会や町内各種業種の若手関係者との意見交換会等を行い、貴重な提案を出していただいたところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 今のお答えです。設置はできたということなんですが、その間、中間から終わりまで、そういう一連に対して、同じようなメンバーでずっと通して事務が行われてきたんでしょうか。できたんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 当然、通常の業務がございます。それで、しょっちゅう集まることは難しいですが、何回かメンバーが集まって協議をして、最後まで意見を出したということでございます。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） いろいろやっているようですけれども、今お話がありましたように、通常業務についても大変多くて、こなすのが大変なんじゃないかと思えます。

例えば、総合計画の策定もおこなっているということで、そういうもの、先ほど申し上げたよう

な問題も起因してるんじゃないかと思うんですけども、いかがなんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 総合計画につきましては、平成27年度の事業の円滑な事務の遂行ができなかったということで大変御迷惑かけておりますが、いろんな分野につきましては、そのプロジェクトチーム等をつくりながら、御意見をお聞きしながら計画等を立てていきたいというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） それでは、その関連も含めてになるんかもしれませんけども、町政の政策を実現するために、町長の政策ということで、困難な課題が発生した場合の対処法としても設置、考えられますけれども、そういった諮問機関的なものというのは事例があったんでしょうか。難しい。（発言する者あり）まあまあ、そう、意味がわからない。（「反問権」と呼ぶ者あり）町長が政策を実現しようとするとき、まあ、大きな事業というのは大体、そういうものだと思うんですが、そういうときに、通常の業務をこなす中で、そういうふうに専門に、町長がそういう組織をつくって、それも含めて協力を、当然、職員も入るわけですが、そういう組織というのは前例があるんでしょうか。通訳、難しい、これも。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 外部の意見等をお聞きする場をつくりまして、地方創生の総合戦略の意見交換会等をつくった経緯はございます。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 質問が下手なんで、もう、言いたいことをちょっと申し上げます。

先ほど申し上げたように、恒常的に業務を行う課や係でなくとも、数年後にされることが決まっているような大事業については、その取り組みに間違いないように、事前の準備から組織を立ち上げ、専門員となる職員を配置することが望ましいと思います。限られた職員数の中で、通常業務の多忙な中で、そういった臨機応変な運営、対応ができるような組織をつくっていただきたいということで、そういう組織づくりになっているんでしょうかということです。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 大変失礼いたしました。2番目の臨機応変な体制づくりという御質問だというふうに理解しております。

貴重な御意見ありがとうございました。これまでプロジェクトチーム等を設置して協議を進めてきたところでございますが、残念ながら、どうしても、先ほど申し上げましたとおり、プロジェクトチームを設置しただけでは解決できない問題等もございます。また、職員の本来の主業務等が忙しくて、新たな業務に対しての時間的な余裕がないというのも現実でございます。

職員提案の体制づくりにつきましては、必要と認識しておりますので、人事行政組織の担当課であります総務課と協議を行いながら、今後、検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（熊谷 健作君） 7番。

○議員（7番 土田 亮治君） 余り臨機応変な対応ができてないというふうに聞こえます。最終的に、私が言いたいことを述べて終わりたいと思いますが、既存の職員では、担当課1課で賄うことというのは非常に難しいんだと思います。業務的にも特定の課に負担が大きくなって、しわ寄せが職員にかかって、通常の業務にも支障を来すのではないかと思います。ぜひとも大きな事業を行う場合は、担当課を超えた組織づくりを検討していただきたいと思います、ということをお願いしたかったんです。

以上でございます。余りようわからなかった。

○議長（熊谷 健作君） 11分しか使ってねえじゃ。

.....

○議長（熊谷 健作君） 4番、金元正生君。4番。

○議員（4番 金元 正生君） 4番、金元でございます。

それでは、通告順に質問を行います。

本日は、大きく2つの柱でございますが、即時の対応ができるようなものではないと考えます。しかしながら、長期ビジョンを持ってしっかりと取り組まなければならないことですし、今、日出町が持つ課題を全てクリアできればいいのですが、限られた財源の中で、選択と集中による計画、実施が求められる事柄だと思いますので、言うまでもなく、明確な答弁をいただけるのが一番望ましいのですが、そうでなければ、方向性ぐらいはしっかりとお示ししていただきたいと思っております。

それでは、1点目の質問ですが、給食センターの建てかえについてです。

喫緊の課題ということを言われ始めてから幾久しくなります。ちょうど1年前にも森議員が質問されておりますが、以降、何も議会には報告がございませんので、進捗がないと受けとめて質問をいたします。

工藤町長も状況によっては、プライマリーバランスを壊してでもやるべきことはやるというふうに、事あるごとにおっしゃっている中で、なぜ進展しないのでしょうか。日出町教育振興計画の平成27年から29年度版の中にも、基本的施策、学校給食の充実とあり、一部掲載されているところを読み上げたいと思いますが、「学校給食センター施設については、建築から多年が経過し、改築の時期を迎えております。平成27年度には、建設検討委員会を設置し、改築検討の策定を行う予定です」と。そして、最後に、「早期に整備を進めていかなければなりません」ということも記載されておりますが、もう既に1年以上が経過しようとしております。

教育委員会としては、この整備事業、給食センターの建てかえについては、教育振興計画に記載しているとおりのお考えなのかもしれませんが、現時点での優先順位、また進捗がわかれば、あわせてお聞きしたいと思います。

次からは、質問席にて行います。

○議長（熊谷 健作君） 教育委員会教育総務課長、宇都宮敏樹君。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 金元議員の御質問にお答えをいたします。

給食センターの建設につきまして、整備事業の中で給食センターの優先順位はということの御質問ですが、教育委員会としましては、最優先に整備しなければならない施設であるというふうと考えております。

町内の検討状況ということでございますけども、平成27年度5月から、町内の検討の幹事会というのを立ち上げまして、町内の職員による幹事会を2回開催しまして、前回の検討委員会の結果をもとに、さらに検討を重ねてまいったところでありまして、それを2回開催いたしまして、庁内で今、検討しておるところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 検討委員会が27年度5月に立ち上がって、昨年2回開催されたということなんですが、全然、その姿が見えるものが全く議会には報告されていないんですが、2回開催された内容を、具体的には何かどういものがございますか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 第1回目の幹事会につきましては、専門的事項の検討ということでございます。

まず、建設場所、それから施設の規模、建設のスケジュール、それから施設の熱源、それから炊飯の設備、整備する予算、管理運営方法を第1回の幹事会で検討をいたしました。第2回目につきましては、整備における基本的な方針、その中で、安全・安心な給食を提供できる施設整備という項目、それから、おいしい給食の提供、食育、地産地消の推進、それから環境負荷低減への配慮、合理的・効率的な運営ということであります。

それから、整備における基本的な考え方ということで、候補地の条件、それから選定、候補地の選定ですね。それから施設の内容、構造と回数、それから施設の規模、それから平面の計画、それから導入する各部屋の施設構成等を検討を重ねてきたところでありまして。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 検討内容がたくさんあって、かなり大変な作業になるんでしょう

が、それにしては、この2回というのが何か、かなり少ないというような気がします。もう優先順位は、もう一番ということであったので、実行するための計画ですから、この問題は、期間を先延ばしできない状況だと思いますし、計画からいくとあと2年しかございませんが、この1年がこの状況で改築計画の策定までいけますかね、これ。いけますでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 方向性ということでございますけども、財政負担とこのを考えますと、町有地などの用地があると一番費用がかからないということで、町有地があれば、最適な場所となりますけども、ある程度まとまった広さというの、土地が必要になります。条件に合う場所というのが限られますので、条件というのが整い次第、方向性を示したいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） じゃあ、ちょっと教育長にお聞きしたいです。今の答弁で補足も何もございませんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） 給食センターについては、教育委員会としては、もう当然、イの一番に、早急に整備すべき施設ということには異論というか、変わっておりません。

今、この検討を進めていく中で、過去にも当然検討がなされてるというふうに承知しております。で、昨年度に検討を始めて、一番、その、施設の規模とかそういったものはいいんでありますが、用地に関していくと、結構、実は、今のところ4千平米というような規模を考えております。これは、ある程度のまとまった敷地が要ります。その意味では、結構、その費用面でかかると。そうすると、できるだけ、最小の経費で最大の効果をとる気持ちになるものですから、町有地をまず優先すると。で、それ以外にも、町内のそういったところで、通常の、例えば、優良農地は結構高いわけですね。それから農業振興という面もあります。ですから、そういう面では、もう少し、その候補地が限定されてくるということが悩みでございまして、その辺の兼ね合いですね。

で、今、具体的に考えていたのは、川崎の、これはもうずっとそうなんです、テキサスの跡地ですね。きょう、午前中にも少し御質問ができましたけども、錦祥のですね、そのところの推移によっては、あそこの用地が利用、可能性がどのくらいあるのかということも見ながら検討していると。で、それ以外にも多くの用途が考えられれば、状況によりますけども、そういったことも含めて、今、その辺のところちょっと企業誘致との絡みもございまして、今、その辺を少し見定めてるということで。

で、土地に関しては、これ、どこの土地がとかいう話が、仮に、議会に対しても実際言えないのは、もう御理解いただきたいと思うんですが、そういった状況の中で、今、その段階に、今入ってるものですから、大変、今、慎重にその状況を、情報収集も含めて見定めてるというところでございますので、この辺については御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4 番。

○議員（4 番 金元 正生君） 土地とか、そういうお金の問題もあるんですが、それはちょっと、少し後に、先にお聞きしたいと思いますが。今の状況でいって、建設するまでにさらに時間がかかるわけで、現在の給食センター、昭和 59 年に建築されて 31 年以上経過しております。今現在、耐震基準、それから衛生管理基準等、これはもうしっかりクリアされているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 給食センターの施設の衛生管理基準はということでございますけども、議員御存じのように、施設、設備ともに、大変老朽化が進んでおります。施設の建築年というのが昭和 59 年でございますので、耐震性については、基準に沿って建築されているものというふうに考えております。

衛生管理につきましては、現施設につきましては、ドライシステムというものではありません。ただ、平成 11 年からドライ運用というのを図りながら、食中毒、それから異物混入の防止などの衛生管理に努めておるところでございます。

現施設では、作業動線が交差しないように、最大限の努力をして調理に当たっているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4 番。

○議員（4 番 金元 正生君） 衛生基準については、東部保健所あたりが、不定期にしる検査をされていると思いますが、そのスペック、基準値に対して L C L に近いものか、U C L に近いものか、どれぐらいの基準値であるか。把握されていれば、それを聞きたいと思いますが、仮に、今、クリアしているとするのであっても、それから改築終了までにまた数年かかるような状況、その間の耐震や衛生面、これ、どう確保するのかと。

で、建築基準法が昭和 56 年に改正されまして、耐震基準は一応満たしているという考えのものとなのでしょうか、土地や建築材料、それから周囲の環境によっても経年劣化の状況は異なるようですし、今の給食センターの耐用年数もわからないような状況なのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） まず、衛生管理のほうにつきましては、本来、ドライシステムでないといけないということ、各部屋を仕切りがちゃんと設置されていないといけないという部分があります。現状、仕切り等がありませんので、カーテン等、ビニールのカーテン等を設置しながら運用を図っているところなのでございますけども、その他、衛生の管理の中で、施設の中で改良できる部分については、設置基準に合うように衛生管理がされているというふうを考えております。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 耐震のほうはいかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 耐震につきましては、平成56年がちょうどその耐震の分岐の時期になっておりますので、59年ということでもありますので、基準としては耐震があるというふうに理解しております。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 耐震基準については、調査するのもお金が要るんですが、私が調べたところでは、日出と同じ59年、昭和59年に建設された給食センターでもかなり問題が発生した上で、もう建てかえているというような事例も少なくはありませんので、その辺ちょっと、少し確認できるものがあれば、早急に確認していただきたいと思いますが。

では、先ほど教育長のほうからも、候補地については、ちょっと今のところとは、何とも言えないような答弁をいただきましたが、給食センター、基本的には、工場という区分になりますので、建築許可が得られる場所ということでは、日出町では限られた一部の場所になると思います。工業地帯、準工業地帯というような状況になると思いますが、今、これだけ防災、言われているわけですから、先ほど申し上げました地域では、問題がかなりあるのではないかと思います。で、無指定地域でも状況によっては許可を得ることはできるようですので、その町有地もしくは工業地域あるいは準工業地域を考えているのか、無指定地域のほうで検討されているのか、そのどちらかぐらいはお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 議員おっしゃるように、給食センターにつきましては、工業用地というのが建てる建築の条件になっておりますけども、特に、今現在、候補地と上げておりますのは、工業用地、それから無指定地域を、それを問わず、検討の候補として上げております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） じゃあ、今、私が言った部分を含めて、今、数カ所の候補地を絞り込んでいるというような状況であるという解釈でよろしいですか。はい。

では次に、候補地がある程度、今、絞り込みの作業であるということですが、建てかえに係る費用の試算と補助金等の財源確保についても、これ、並行して進めていかなければならないと思いますが、先ほど教育長のお話の中にもありましたが、この辺は並行して進めて、当然、いるのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） まず、施設の大きさ、規模等をちょっとお知らせいたします。

まず、先ほど申し上げましたけども、敷地につきましては4千平米を見ております。それから、建物の床面積、これは炊飯施設なども含めまして、1,600平方メートル程度必要ではないかというふうに考えております。

それから、施設整備費と厨房機器の購入費用というのが10億2千万円ぐらいはかかるのではないかというふうに試算をしております。

この財源というのにつきましては、うちがまた財政担当課のほうと、また協議しながら進めてまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、課長の答弁で、これから財政課と答弁するというようなことなので、少なからず、これは並行して進めていただきたいと思います。

では最後に、この質問の、給食センターについて、今後のスケジュールについてお伺いいたします、もう一度。できれば、マイルストーンチャート的な答弁をいただけるとわかりやすくありがたいのですが、そうでなければ、答弁しやすい形でも結構です。

今現在、検討している、この状況から建てかえが終了するまでのスケジュールについてお聞きいたします。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 今後のスケジュールについての御質問でございますけども、教育委員会としましては最優先の事業と考えております。施設の配置、それから土地の広さなどの条件によって変わりますので、候補地や建物の広さに合う条件が整い次第ということで事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） ありがとうございます。この件については、その、児童生徒の食の安全のみならず、働かされている方の安全確保という面からも、ぜひぜひ、もう本当に早急に進めていただきたいということを強く申し上げまして、次の質問に移りたいと思います。

では、次の質問ですが、さざんか通り商店街及びその周辺の活性化についての質問でございます。

期待をしておりました、20年ぶりにめぐってきた昨年のJR、デスティネーションキャンペーンも風のごとく通り過ぎましたが、町としての今後の構想について、いろいろと調査検討されているのですが、城趾周辺、暘谷駅周辺整備も着々と進む中で、その中間に位置する商店街の状況はどうかというと、言うまでもなく閑散とした状況でございます。今後について、どういう構想を持たれて取り組んでいくのか。

先日、ある個人事業主さんとお話をいたしました。その方の商売とは全く異なる内容のものでしたが、北浜、南浜、下町、宮町あたりの方からお聞きする中で、日常生活品ぐらひは近くで購入したいというような声が多いので、その個人事業主さんは、先ほど申しました、地域の方々が高齢者が多いために、そういった日常生活品ぐらひは私のところで購入できるようにしようかと、今、検討しているところですよというような切実な思いをお聞きしましたが、町としても、その空き店舗対策や、この時期で言うと、カレーラリー、雛めぐりといったように、いろいろと努力されているところは感じておりますが、行政が行うのではなく、行政が取りまとめて商工会、各種団体、また個人事業主さんの方々の意向に沿った形で、行政がサポートするという形が望ましいのではないかと感じておりますが、皆さんが同じ方向を向いて取り組むことが活性化につながると感じております。地域の事業者さんは、いろいろと実態を把握した上でアイデアもお持ちの方も多々いらっしゃるようですが、農務行政との歯車が少しかみ合わないと感じております。商工会や各種団体さん、個人事業主さんとの連携、また状況把握はされているのか、最初にお聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 商工会や各種団体、また個人事業主との連携ということの御質問でございますが、現在、さざんか通り商店街については、昨年の議会でも答弁いたしました。活動については、5年ほど前から休止状態ということでもあります。ということで、その際、商工会の事務局とも何か考えがあるのかというようなことは問い合わせた経過がありますが、商工会として、特に商店街の活性化のために、何かこう取り組むもうというようなことは考えてないというような回答をいただいております。

そういう中で、先ほど議員さんがおっしゃられたような形の、行政というか、商工観光課とし

て、雛めぐりとかカレーラリーとか、そういう取り組みをする中で、少しでもにぎわいなり、売り上げがですね、商店街の売り上げに貢献するような形の取り組みが現在やっているところであります。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 商工会のほうも5年前から活動の休止状態ということで、これは、以前もある議員が質問したときに、私もお聞きしたんですが、ですから、今こういう、今だから、ぜひ、皆さんがスタートラインにつくまでの作業をやっていただいて、連絡協議会的なものを準備してぜひやっていただきたいと思います。

ちなみに、カレーラリーや雛めぐり、土日、私も何度か行きましたが、ちらほら、それを目的での人を見かけておりますが、今後につなげるために、そのデータ収集や目標値の設定等、これはされているのか、お聞きいたします。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 雛めぐりにつきましても、現在、日出町観光協会のほうが主体でやっておりまして、その中に、商工会女性部も深見記念館を活用した土日の接待等を行っているところであります。

そういう中で、雛めぐりについては、もうカレーラリー、スタンプラリーという形式をとっておりますので、その中で景品等を提供するというようになっておりますので、実際に参加された方については、そのスタンプを押したものを持ってきて、抽せん等に参加しようということになろうと思いますので、当然、人数等は把握できるような形になろうと思います。そして、それぞれのお店についても、お店または雛めぐりのひなを飾っているところについても、何名の方が見えたかということは後で把握できるというふうに思っておりますので、その結果をもとに、また来年以降の取り組みに生かしていきたいというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、そのスタンプラリーとかでデータ、とれるようになっているということで、それをしっかり検証して、次につなげていきたいということなので、それはもうぜひやっていただきたいと思います。

それで、くどいようですが、先ほど言いましたような諸団体を含めて、連絡協議会的なものをぜひやっていただきたいと、これはもう切に思うんですが、それが、空き店舗対策につながったりとか、今、政策推進課が行ってます町の部活サロンあたり、これ、異業種の方でも非常に参考になるところがあって、内容を話せば時間が足りなくなりますので省略しますが、非常にいい事例だと、私も感じております。

で、商工観光課と政策推進課、町の活性化について通じるところもあろうかと思っておりますので、

ぜひ、これ連携してやっていただくとか、検討ではなく、もうやっていただけませんか、ぜひ。前に進む方向で進めてください。いかがでしょうか。前向きな答弁を。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 商店街の活性化につきましては、行政主導ということじゃなくて、議員も言われましたように、店主、また商店街の、さざんか通り商店街の方が主体となって取り組む中で行政が支援していくという形が本来の形だというふうに思っております。そういう中で、今、さざんか通り商店街というのは休止状態ということでもありますので、ということであれば商工会、また、先ほど言いました、政策推進課の部活サロン、そういうものと連携しながら、商店街の活性化に向けて取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 今、課長がおっしゃるとおり、私も課長のおっしゃるとおりだと思います。ただ、しかしながら、このスタートラインにつくまでの準備を行政のほうやっていたら、大変ありがたいかなというふうに思います。もう、これといった、その特効薬はないですから、地道に活性化に向けた協議会的なことをぜひぜひ進めていただきたいと思います。

では次に、今後の方向性、取り組みについて、新たに検討しているものや、もう既に計画しているものはございますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 特に新たなものというのはございませんけども、空き店舗対策事業につきましては、平成26年度から取り組みを始めまして、今現在、2件ほど実績が上がっております。その中で、来年度予算につきましては、空き店舗に入る方の助成プラス、今現在、既存の商店の方の店舗の改修について若干助成をしようかということで、予算を計上させていただいております。

あと、先ほど申しあげました、雛めぐりとかカレーラリーとか、そういう取り組みをやはり継続的に取り組むことによって、少しずつ効果が上がってくるというふうに思っておりますので、その辺も継続していきたいなと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） 何かを始めなければ、さらに、この閑散とした状況が進むと思われるので、現実に、私がたまに寄る商店でも、トキハインダストリーの移転以降、店を閉める時間も早くなりましたし、もう少し、皆さんがこう、状況は持ち寄って開業できるようなところのスタートラインの場所をつくっていただく、いただきたいと思ひますし、まちづくり協力隊を含めた政策推進課と商工観光課あたりは、もう少し連携して取り組んでいただければ、活路が見出せる可能性も高くなるかと思ひますので、ぜひぜひ検討していただきたいと思ひます。

それでは、最後の質問に移ります。

今、取り壊しが行われておりますトキハインダストリー跡地についてでございますが、この質問をするに当たっては、地権者の方には御了承いただいておりますことをはじめにお伝えしまして、質問に移ります。

町民の方々、また特に日出地区の方々からは、あの跡地についてはどうなるのと、多くの方々が興味を持たれております。また、一等地でもあり、町のほうで何か利用計画があるのかとも聞かれることも多々ございまして、町有地ではないということは重々承知しておりますし、財源の問題もあるのですが、今後の利用計画の検討をされているのか、あるいは姿が見えるぐらいの構想があるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 町の活用についての検討については、ちょっと私のほうが答える立場にないかというふうに思いますが、今現在、トキハインダストリー、昨年の6月に移転しましてから、空き店舗というような状態になっておりまして、もうごらんになってわかると思いますが、先月、2月から取り壊しの作業に入っております。そして、取り壊しの期間が、トキハインダストリーの話では5月中ぐらいまでかかるのではないかというような話、聞いております。ということで、その中で、トキハインダストリーとして、その後の活用計画はあるかということではありますが、それについては、今現在はないというふうに聞いております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） じゃあ、今のところ何も構想はないと、白紙の状態であるということで、まあ、これは期待をしていたところですが、非常に残念に感じております。

では、一つ二つ検討していただきたいと思いますが、箱物については、私も必要最低限でいいというのが基本であります。時代の流れや現状、また今後のことを考えますと、例えば今、教育委員会部局も10号線を挟んだところに位置しており、効率的にもよいとは言えない状況であると。それから、防災面の強化策として、日出町は総務課がフォローしているという状況ですが、防災危機管理課を新たに設けている自治体がふえております。防災センターも同じくです。

で、先ほど給食センターの件で質問をいたしました。トキハインダストリーの跡地、購入、また賃借するかも含めて、町の複合施設を検討してみたいかがでしょうか。かなり、非常に意義を得た取り組みになるのではないかと思います。防災危機管理課を新たに設け、給食センター、食糧の備蓄倉庫の確保等、考えれば切りがありませんが、有事の際には迅速かつ適切な対応ができると、施設の内容によっては、名称は第2庁舎であったり、防災センターであったりと、今の時点ではわかりませんが、複合施設として、これ、ぜひ検討していただきたいと思いますが、

町長の御所見をお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 金元議員の御質問にお答え申し上げて、大変有意義な、適切な御指摘でありがとうございます。

これまでのトキハインダストリーのこの建物の、随分、もう5年間ぐらい検討しておりまして、これまで何回も、この場でも若干御説明申し上げたことがあるんですが、実は、建物を壊す前までは4年間、何とかこれを有効に活用できないか、こういうことを検討してまいりました。そのときに、今さっき教育委員会も最優先だと言っておる、この給食センター、そしてまた、当時、大重要事項でありました図書館、この2館をここに併設できないかということで随分検討して、詳細な検討資料を持っておるわけです。そういう経過の中で、図書館は商業施設の、併設したらどうかと、大変、立派な御提案いただいて、そういう案をそのまま移して、今、既に開館しているという状況にあるわけでありまして。

この建物を耐震強化、そのほか構造関係で、何とか有効に活用できないかということで、いろいろ、当初は、日出町であれを買わないかとか、いろんなお話があったんですが、しかし、結果的には、やはり買うだけの、危険は、私どもは負えないということで、いろいろ話して、償却資産としてかなりの金額残っておりましたから、そういうことをもうゼロにしてでも町が受け取って、何か使わにゃいかん、こういうお話も出たんですが、そういう例え、意見をいただいても、今度はやはり耐震強化の方策だとか、改修経費とか、多々大きいお金がかかる、むしろ建てたほうが良いというような方向性も出ておりました。

そういうことですから、これはもう全てお断りをした中で、地権者と、あるいはトキハのインダストリーのほうと協議されて、最終に取締役会等であれを廃棄、破棄して撤去すると、こういうことになったんだと、私はそういうふうに推測しております。それが、今先ほど申し上げたように、5月ごろまでに解体を終わると、こういうことでもあります。

3千数百平米ございますし、適地として、周辺には新たに駐車場の用地も購入したり、駐車場を設置したりするわけでもありますから、いろんな可能性としては、さっき、御提案がありましたような、そういう案も含めまして、その後、図書館が向こうに行くようになってから、何とかこも庁舎の第2庁舎として可能ではないか、これは、あくまで私の考えだとか、中で正式に決めたという方向性ではありませんので、御理解いただきたいと。そういうことを考えて今日まで来た中でありまして。しかし、今、さっき御指摘がありましたように、地権者は別にあるわけでありまして、地権者とトキハインダストリーの間には一定の期間の賃貸協定・協約があるわけでありまして。それが、当然、撤去されますから、解除される方向にあるのではないかと、そういうふうに、私は推定をいたします。

そういうふうになったときに、これまでの経過を踏まえて、やはり今言われたような案は、随分、もう四、五年前から検討してきた状況であります。同時に、いま一つ課題は、給食センターが仮に、来るといときは工場用地としての適用をされます。周辺の住民の皆さん方の御同意を必要とするわけでありまして。いろいろ課題がありますので、どういうふうな形でやればいかと。ちょっと1番目の質問に戻りますが、私は早くつくりたかったんであります。給食センター。それで、テキサスの工場用地の一部を使えるようであれば、速やかにと、こう考えたんであります。これもなかなか困難を伴ったと、こういうことであります。それは、今、御破算といえますか、案としてはなくなっておるわけでありまして。

そういう中で、教育委員会が適地として川崎工場の工場団地といえますか、あの周辺であるとか、あちこちで適地を一応探しております。そういう中に、一つの、適地の一つとして考えられる、挙げられるのではないかなと、そういうふうに思いますが、既に、その衛生面だとか、設備、金額の問題であるとか、いろんなものが、もうほとんど、いつでもやれば解決できる問題、問題は予算と規制があるわけですから、規制をしっかりと乗り越えていけば、いつでもでき上がるわけでありまして。

そういう意味から考えると、何回も教育委員会も言ってるように、速やかにという状況から考えると、町の計画の中に、中期財政計画、長期財政計画があります。その財政計画の中にはもう、大体、給食センターの、ある一定の方向づけは中にしてあるわけでありまして。しかし、課題が多々ありました。城周辺の整備あるいは高校の跡地の整備あるいはいろんな小中学校の耐震強化等の整備、今回、体育館の整備、そしてまた、今回、ことしの28年度予算の中では、旧庁舎の耐震強化が行われているということでありまして、28年度を経過すれば、ある程度方向性が出てくると、こういうことになってまいります。

そういうことからすれば、今、御提言がありましたようなことを踏まえて、私は、土地の方向が決まってくれば、ここというわけじゃありませんが、どこか早く決めれば、私は早い時期で、まず考えられるのは、全体の概要といえますか、あらましの設計が要る、実施設計が要ります。それができれば、もう建築かかれるわけであり、問題は土地の問題があります。ですから、28年度は、この土地をどうするかという問題を非常に絞って、検討して、早くやっぱりしないと、いつまでも議論ばかりしても時間がかかるわけでありまして。しかも、ことしから、28年4月から新しい業者による5年の計画が、今、議会として給食センターの運営の問題あります。ですから、そういうことをある中で考えると、早い時期にいろんな整備についての段取りを明確にしていかなきゃならん、そういうふうに思っておりますので、十分、今、受けとめられた点については、拝聴しながら、具体化のために進んでまいりたいと思います。

非常に抽象的なお答えになっておりますが、ここをどうするという点については申し上げら

れませんが、十分、意を受けて検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 4番。

○議員（4番 金元 正生君） ありがとうございます。日出町も過疎債、辺地債、合併特例債と、このあたりもいただきませんでしたので、日出町でこういった公共施設をつくろうと思えば、かなり財政面で不安があるとは思いますが。しかしながら、町長もこれまで御苦労されて、かなり厳しい財政状況の中で、高いハードルを幾つもクリアしてこられた手腕で、ぜひまたこのプランを、調査検討をぜひぜひさせていただいて、実現していただきたいということを申し上げまして、私の質問を終わります。

○議長（熊谷 健作君） これで一般質問を終わります。

散会の宣告

○議長（熊谷 健作君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれにて散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

午後2時49分散会
